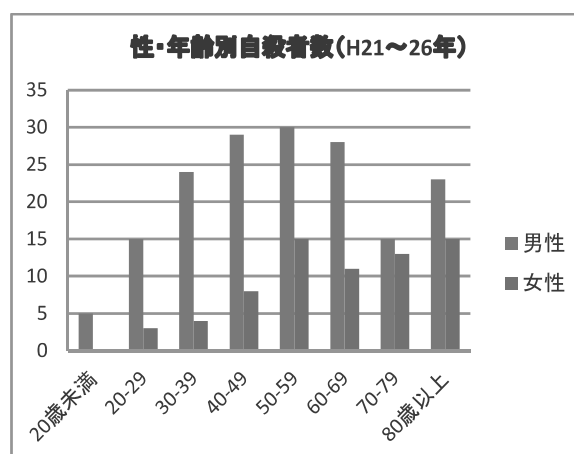
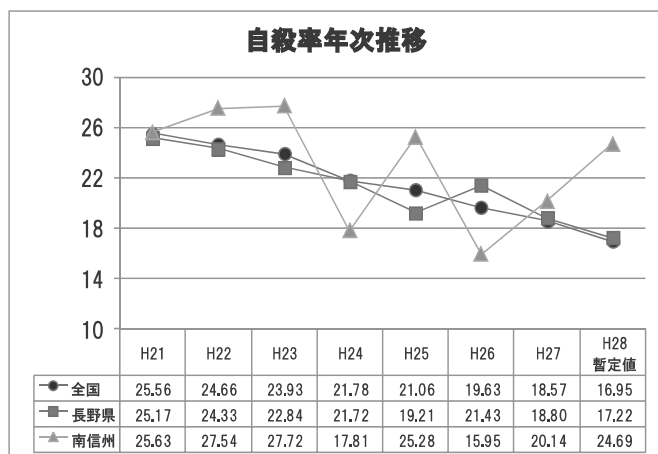
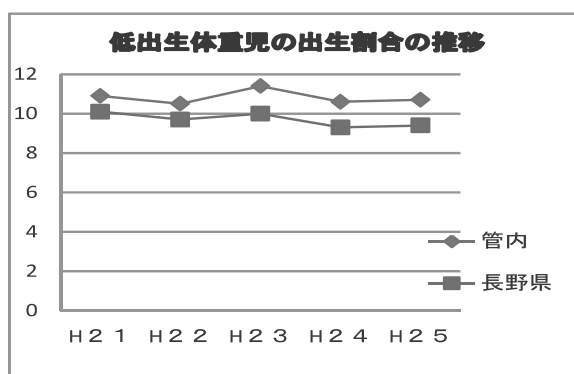
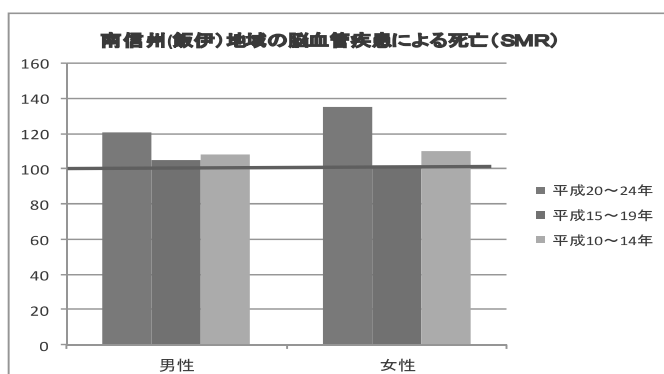


V 保健・医療・福祉・安全・安心

2 健康

【現状】

- 信州保健医療総合計画に基づき事業を実施している。最新の標準化死亡比(SMR)をみると、脳血管疾患による死亡が平成15～19年には減少したが、20～24年には増加し、全国、県と比べて高い値で推移している。
- 全国では平成21年をピークに自殺者が減少してきているが、南信州地域においては年によって増減があるものの自殺者は横ばい状態にあり、中でも、働き盛り世代の男性の自殺が多い傾向にある。
最新の衛生年報によれば、平成25年南信州地域男性の自殺率（人口10万対）は35.4人（県平均29.3人）、女性の自殺率は15.0人（県平均11.4人）と県を上回っている。
- 南信州地域は、低出生体重児の出生割合が県より高い値で推移している。低体重児の発生防止のための啓発が求められている。一方、育てにくさを伴う低体重児は児童虐待のハイリスク群といわれており、早期から、児の発達段階に応じた継続性のある支援が必要とされている。
- 近年、発達障害の増加が懸念され、一方不十分な対応を起因とする二次障害も問題となっている。関係機関では、対応方法について試行錯誤している現状にある。



【課題】

- 脳血管疾患を予防するための健康づくり対策
- 成人期の生活習慣を形成する思春期における健康教育を充実するため、地域保健分野と学校保健分野の連携を図る。
- 働き盛り世代の男性をターゲットにした自殺防止対策
- 子どもの成長に係る関係者間の情報を共有し、一貫性のある支援が提供されるよう、飯田下伊那未熟児等支援システム事業をさらに推進する。
- 発達障害と診断された児に早期療育が開始される体制づくり